

幼稚園

平成 16 年 度

教育研究員研究報告書

幼 稚 園

東京都教職員研修センター

目 次

研究主題設定の理由	2
研究の内容と方法	
1 研究の概要	2
2 調査研究（アンケート調査とその結果）	3
3 研究主題のとらえ方	
（1）たくましくしなやかな幼児について	5
（2）「葛藤」について	5
（3）「もやもや」について	5
（4）幼児が葛藤しているときの「もやもや」した気持ちを調整し解消していく過程	6
4 事例	
分析・考察の方法	7
事例1 4歳児 5月「教師に気持ちを受け止められることで満足する」	8
事例2 4歳児 6月「教師と共に動くことで不安を解消する」	10
事例3 4歳児 11月「教師が他の幼児にもかかわっていたため、 もやもやした気持ちをもち続ける」	12
事例4 5歳児 7月「自分の力で解決の方法を見付けられるように 支えることで納得する」	14
事例5 5歳児 7月「自分の力で考えられるように支えることで 葛藤を乗り越える」	18
まとめと今後の課題	
1 事例から見たもやもやの要因とその対応	22
（1）4歳児の事例から	
（2）5歳児の事例から	
2 たくましくしなやかな幼児を育てるための、一人一人に寄り添った援助について	24
3 今後の課題	24

研究主題 「たくましく しなやかな幼児を育てる」 ～一人一人に寄り添った援助～

研究主題設定の理由

幼児を取り巻く環境の変化は、幼児の生活に様々な影響をもたらしている。いろいろなものに興味・関心をもち、自分からかかわろうとする幼児の姿が見られる。その一方で、少子化、都市化、核家族化などにより、幼児のコミュニケーション不足、体力の低下、自然などにかかわる直接体験の減少などが報告され、保護者が子育てに自信をもてなくなるなどして幼児虐待や育児放棄などの悲惨な状況もある。友達とうまくコミュニケーションを取れない子どもが、小・中学校でも問題になり、痛ましい事件も起きている。

このような環境の変化に伴い、幼児の生活面では、必要な技能や生活習慣が身についていない、依頼心が強いなどの幼児の姿が多く見られる。心情面では、葛藤場面で自分の思いをうまく表現できずに気持ちが発散しきれない、自分で納得がいかにずい気持ちが晴れないなど、心のストレスを抱えている。

幼稚園は学校教育のスタートであり、幼児期だけの問題ではなく、生涯学習の観点からも学びの基礎作りのために重要である。幼児教育に携わる教師がこのことを深く自覚すると共に、幼児期において重視すべき幼児の生活を再認識することが重要である。

私たちは、子どもたちが、様々な環境に興味・関心をもち夢中になって遊び、困難な場面や葛藤する体験に直面したときには、自分の力で問題を解決していこうとする積極的な姿勢をもてるように育ててほしいと願っている。幼児期に豊かな心をはぐくみ、想像力、持続力、体力、集中力などを伸ばしていくことは、生涯にわたって大切な生きる力につながる。そこで、生きる力の基礎となる「心情 意欲 態度」の育成を「たくましくしなやかな」心の育成ととらえ、幼児が困難に出会ったとき、自らが納得し困難を乗り越えていけるようにすることが大切である。そこで幼児一人一人の内面に目を向け、葛藤場面での心の動きや揺れに着目し、幼児の心に寄り添う援助について明らかにしたいと研究を進めていくことにした。今回は部員の構成が4・5歳児の担任であるため、事例を4・5歳児にしぼって検討することにした。

研究の内容と方法

1 研究の概要

(1) 研究の仮説

幼児がもやもやした気持ちを感じているときに、一人一人に寄り添った援助を行えば、気持ちを自ら切り替え調整していく経験を積み重ねることにつながり、「たくましく しなやかな幼児」が育つと考えられる。

(2) 研究の方法

- ・ 幼児観察を通し、「たくましく しなやかな幼児」の姿について共通理解する。
- ・ 文献研究、アンケートによる調査研究を行う。
- ・ 実践事例より、幼児が経験する心の揺れの葛藤場面から、そこで経験する気持ちについて考察し、一人一人に寄り添った援助を検討する。

(3) 研究のまとめ

幼児が心の揺れの中で経験するもやもやした気持ちを、教師の援助によって自分で調整し解消していこうとする過程を探り、一人一人に寄り添った援助のあり方をまとめる。

2 調査研究(アンケート調査とその結果)

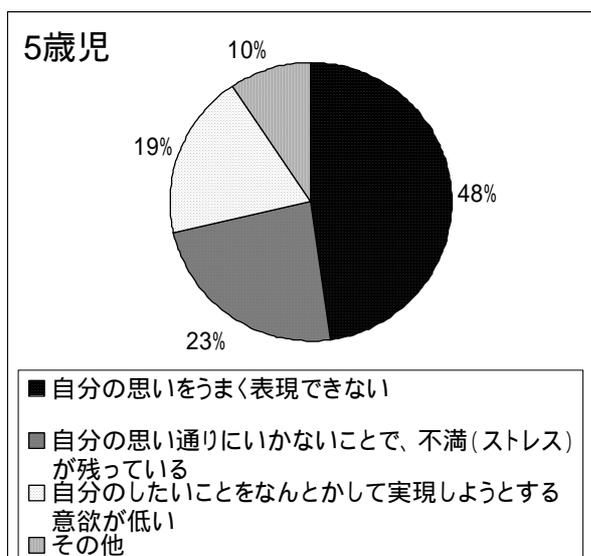
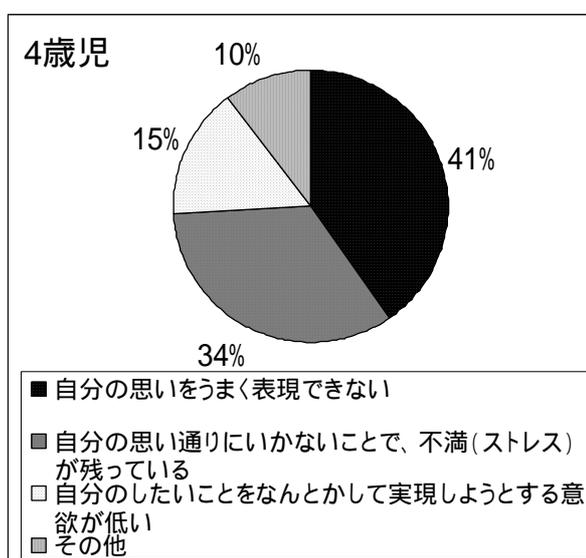
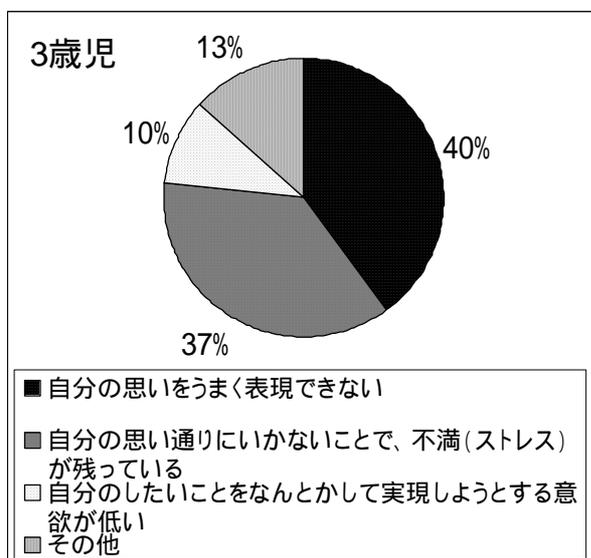
研究を進めるに当たり、東京都公立幼稚園の中から93園を対象にアンケートをとり、幼児の生活や遊びの中で、気になっている姿と、どのような言動からそれを感じているかを調査した。

<アンケート対象>

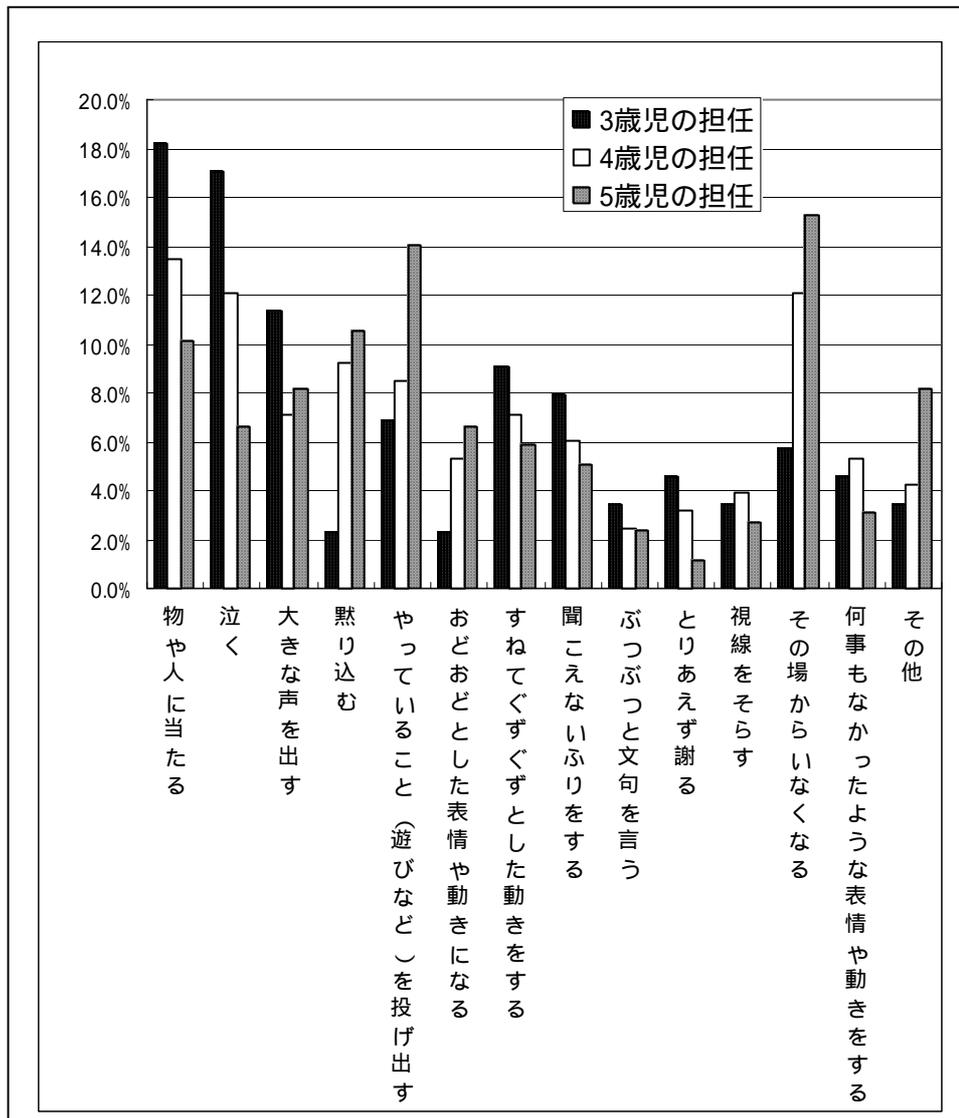
新宿区・文京区・台東区・墨田区・大田区・渋谷区・練馬区・葛飾区・日野市の公立幼稚園(93園)の担任教諭221名

<アンケートの設問と結果>

問1 最近の幼児の生活や遊びの中で、あなたが気になっている幼児の姿を以下の中から1つ選び、印をつけて下さい。



問2 問1での姿を、どのような言動から感じられますか。以下の中から3つ選び、印をつけて下さい。



アンケートの結果および考察

年齢を問わず、担任の教師の目から見て、自分の思いをうまく表現できないでいると感じられる幼児、自分の思い通りにいかないことで不満(ストレス)が残っている幼児が約70%と多い。

気になる幼児の姿の具体的な言動としては、年齢別に次のようなことが分かった。

- ・ 3歳児では、「物や人に当たる」「泣く」「大きな声を出す」などはっきりと思いを外に表わす表現が多い。
- ・ 4歳児では、「物や人に当たる」「その場からいなくなる」「泣く」など、はっきりと思いを外に表わす表現と共に、回避ととれる行動、内側に向かう表現も多い。
- ・ 5歳児では、「その場からいなくなる」「やっていることを投げ出す」「黙り込む」など、回避ととれる行動や、内側に向かう表現が多い。

年齢が上がるにつれ、自分の思いの表現がはっきりと外に出ないようになり、回避ととれる行動や内側に向かう表現などが約40%と多くなる。これは、担任から見て気になる幼児の状態が、気持ちがはっきりと外に表現されず、不満、ストレスが残る「もやもやした状態」にあるのではないかと考えられる。

3 研究主題のとらえ方

(1) たくましく しなやかな幼児について

幼稚園の生活の中で、幼児は多様な感情を体験している。「楽しい」「嬉しい」「できた」という『快の感情』は、幼児の意欲を高め、前向きな態度で行動しようとする原動力となっていく。しかし、生活の中では思い通りにならなかつたり、困難なことに出会ったりすることもあり、『不快な感情』を体験することもある。幼児が不快な感情を切り替え調整し、困難な状況乗り越えていく経験を積み重ねることは『たくましさ=力強さ』という側面と『しなやかさ=折れてしまわない柔らかさ』という側面の両面を兼ね備えた力をはぐくむことにつながると考える。

そこで、本研究では、『たくましく しなやかな幼児』を次のようにとらえた。

**「たくましく しなやかな幼児」とは・・・
さまざまな状況の中で、自分の気持ちを調整して前向きに行動していこうとする幼児**

(2) 「葛藤」について

幼児が遊びや生活を通して体験しているさまざまな感情の中で、友達との間で思いと思いがぶつかり合ったり、自分のやりたいことが実現できなかつたりするなど、『不快な感情』も体験している。その中で、前向きに行動したいと思い、自分の本当の気持ちに向き合い解決しようとするとき、相反する気持ちの中で心が揺れる。このような状態を、私たちは「葛藤」としてとらえていくことにした。

**「葛藤」とは・・・
自分の本当の気持ちに向き合い解決しようとするとき、
相反する気持ちの中で心が揺れている状態**

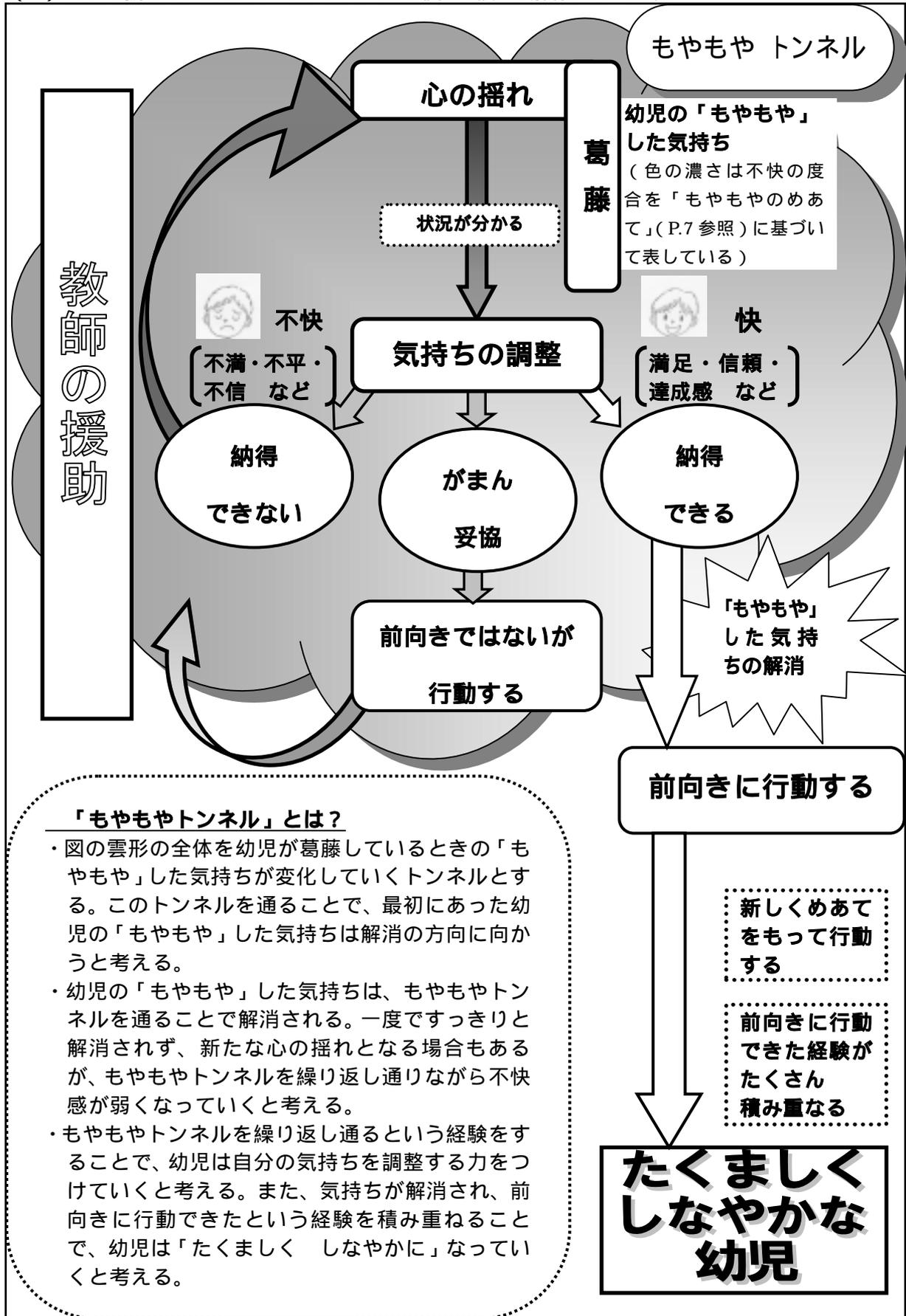
(3) 「もやもや」について

「葛藤」の中で幼児は、その気持ちを明確に表せないことがある。理由は分かっているが素直に行動できない、理由も分からず不快に感じる、気持ちがすっきりせず不満が残っているなど、幼児が素直になれなかつたり、なぜか分からないが不快に思ったりする気持ちを、「もやもや」した状態として定義した。

**「もやもや」とは・・・
幼児が、素直になれなかつたり、なぜか分からないが不快に思ったりする気持ち**

この「もやもや」した気持ちは、周囲の状況や相手の気持ち、自分の気持ちの状態や変化によって強くなったり弱くなったりする。問題が解決するとすっきりすることもあるが、「もやもや」した感情を残すこともある。この「もやもや」した感情の発生から解決に向かうまでの間を「もやもやトンネル」として着目し、研究を進めていくこととした。

(4) 幼児が葛藤しているときの「もやもや」した気持ちを調整し解消していく過程



4 事例

分析・考察の方法

各事例の幼児の言動から心の揺れや動きに添って『もやもやトンネル』を図式化し、快・不快の度合いをもやもや度曲線で表した。そして、次の項目を設定し、分析・考察をした。

分析の視点

気持ち 感情 教師の言動と意図 教師の援助 もやもやの要因と解消していく要因

各事例から出された幼児の表情・視線・動き・言葉をもとに<もやもやのめあて>を作成し、『もやもやトンネル』の中での気持ちや感情の起伏を濃淡で表現している。これは、下記の<もやもやのめあて>を基準にしている。

考察の観点

幼児の気持ちの調整の仕方 もやもやを解消させるために必要な教師の援助 たくましさやしなやかさにつながる経験

もやもやのめあて

不快 ←————→ 快

表情	<ul style="list-style-type: none"> ・沈んでいる ・激しく怒っている ・怒って泣いている ・悲しくて泣いている ・やや怒っている ・やや暗い ・イライラしている ・不愉快な表情 ・無表情 ・笑っている ・明るい ・穏やか ・表情が動く
視線	<ul style="list-style-type: none"> ・視線を完全に合わせない ・じっと睨みつける ・不安定で教師を探す ・視線が定まらない ・伏し目がち ・少し不安そうに相手を見る ・ちらちら相手を見る ・キラキラと輝いている ・相手と視線が合う ・相手を見る ・真剣
動き	<ul style="list-style-type: none"> ・その場を立ち去る ・叩く ・暴れる ・叩こうとする ・物に当たる ・ためらいがち ・後ずさり ・動かなくなる ・じっとしている ・やや落ち着きがなくなる ・活発 ・積極的 ・自分の遊びをする
言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・激しく相手を責める ・感情的な言い方 ・黙ってしまう ・自分を正当化する ・ぶつぶつと不満そうに言葉を繰り返す ・否定的な言い方 ・気弱な言い方 ・小さな声 ・言葉数が減る ・一方的な言い方 ・自信のある言い方 ・明るく軽快 ・自分の要求を出す ・自分の思いを出す

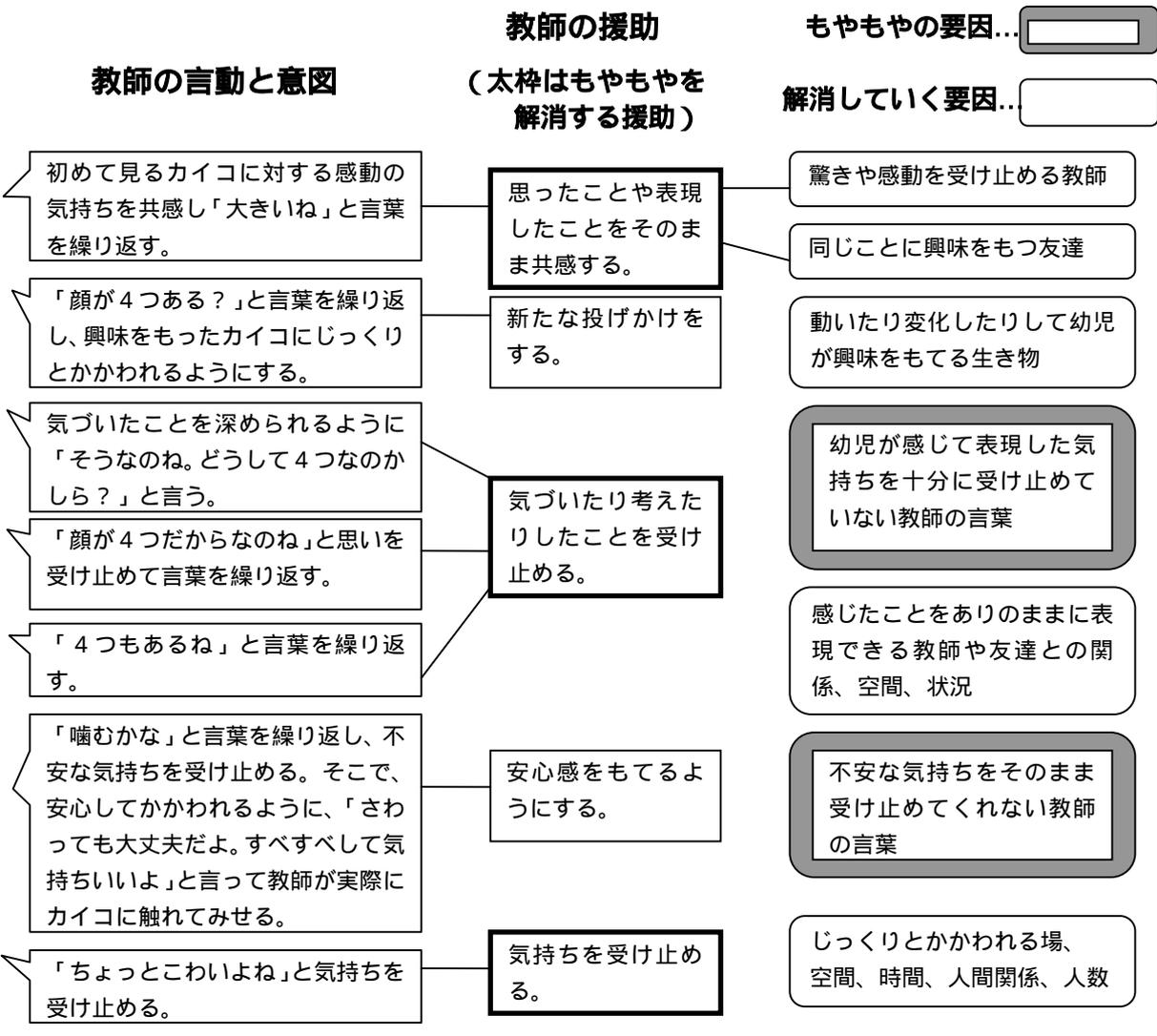
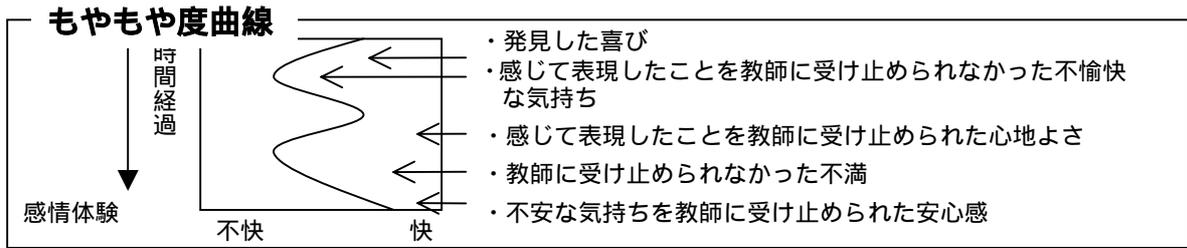
事例1 4歳児 5月「教師に気持ちを受け止められることで満足する」

子どもたちに自然体験をさせたいと思い、幼稚園の近くにある研究所からカイコを50匹もらってきた。皆が見られるように、大きな箱に桑の葉を敷いてカイコを入れ、置いておいた。A児は初めて見るカイコに興味を示し、他の2人の4歳児と顔を近づけてじっと見ていた。

A児を中心とした幼児の言動

A児の気持ち・感情





考察 (考察の観点: 教師の援助・気持ちの調整の仕方・たくましさなやかさのつながる経験など)

- ・教師が幼児の気持ちに添った援助をしているときには、幼児は自分のありのままの思いを出せ、じっくりと環境にかかわれる。しかし幼児が教師に受け止められていないということが分かったら、幼児は穏やかな気持ちで人やものにかかわることができなくなり、強い口調で拒否をするなど、もやもやした気持ちになる。
- ・幼児がもやもやした感情を教師に表現してきたときに、幼児の思いをそのまま受け止める援助をしていくと、安心感を持ち、気持ちが落ち着き安定して、もやもやの気持ちが調整されていく。そして幼児が興味をもっているものをもっとよく見たいという意欲が高まり、もやもやが解消されていく。
- ・4歳児の5月では数人でカイコを見ていても、一人一人が自分の感じたことを教師に伝えてくる。教師は一人一人の思いを受け止めるようにし、すべての感情を教師や友達に出せるようになることが大切である。幼児が教師と自分の思いがつながった気持ちをもてると、幼児は教師に信頼感を持ち、安定して自分を出せるようになる。

事例2 4歳児 6月「教師と共に動くことで不安を解消する」

D児は、入園前に自分で身の回りのことをする経験が少なく、知らないこと、出来ないことへの不安がある。教師に一つ一つのやり方を確かめてから動くことが多い。遊びの経験も少なく、特に手先のことが苦手で「出来ない」という思い込みもある。前日の降園前の片付けの時間、自分が何をしたらよいか分からず涙ぐみながら「もう幼稚園に来ないことにします」と言って降園した。

D児の言動

D児の気持ち・感情

一日目 降園時

D児は他の幼児が遊びの片づけをしている様子を、心配そうに立ったままじっと見ている。

自分が何をしてよいのか分からない不安感

D児は急に一人で帰りの支度をして黙って立っている。教師に問われると涙ぐみながら小さい声で「もう幼稚園に来ないことにします」と言い降園する。

悲しい気持ち

家で母親に落ち着いて気持ちを伝える。

気持ちを取り戻す（家庭で）

二日目

D児はいつもと変わらない様子で登園し、挨拶や身支度を落ち着いて済ませる。すぐに気に入った遊具を使ってにこにここと遊び、教師の言葉にも機嫌よく反応する。

遊び慣れたことをする楽しさ・満足感

教師の言葉を聞いて「自分は使っていないから片付けなくてよい」という思い

D児は片付けの時間になると急に表情が硬くなり、保育室に戻るなり教師に「Dは何も使っていないんですけど」と困ったように小さい声で言う。

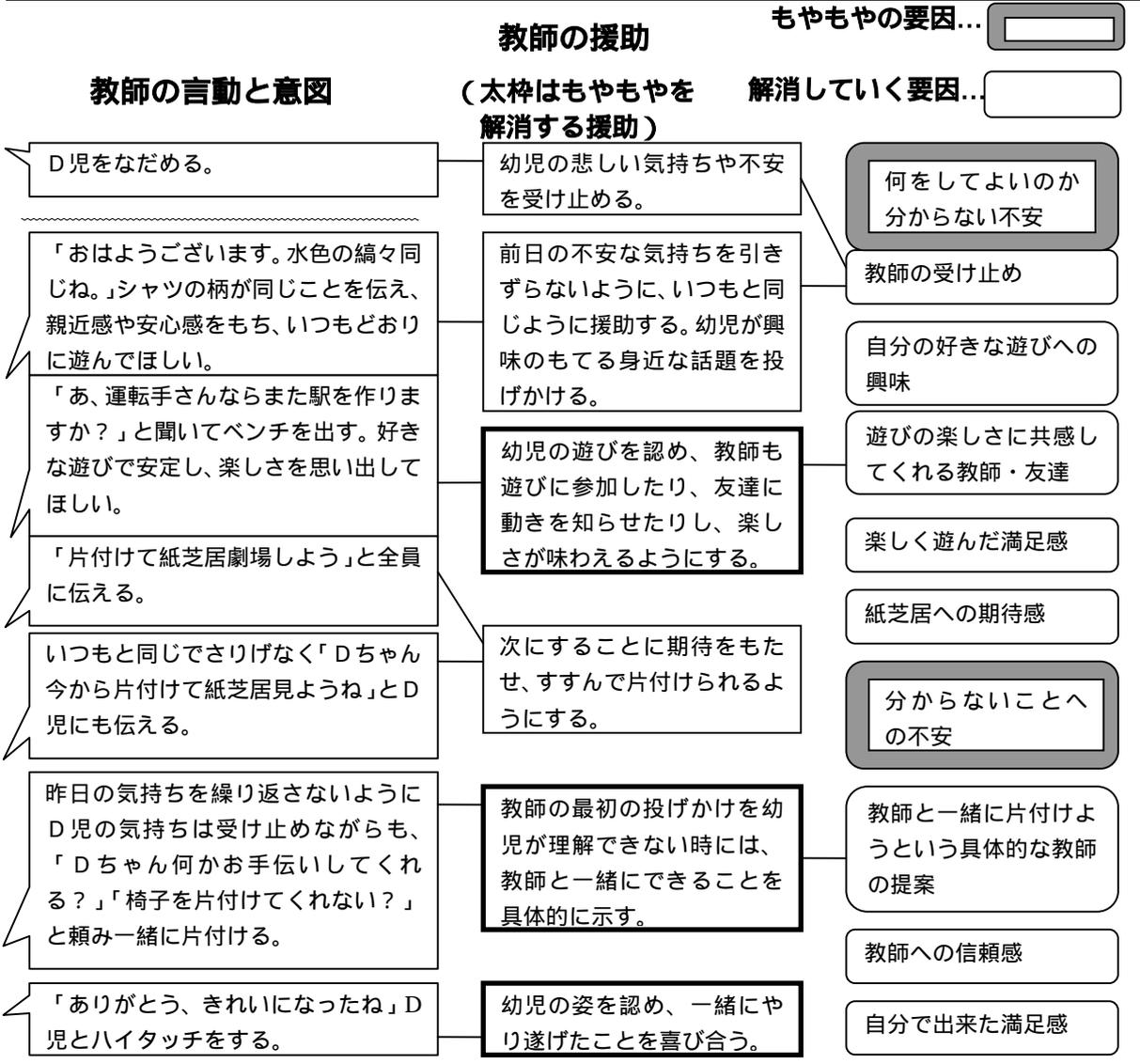
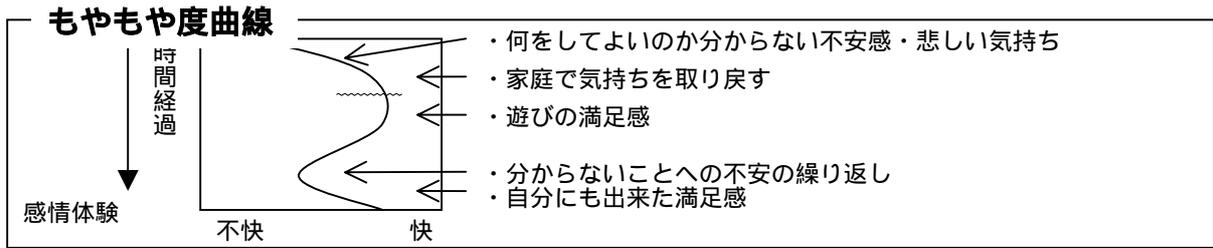
居場所がない不安

どうやったらよいのか分からないという思い

D児は教師に片づけを頼まれるが、抽象的な言葉に困ったように「うーん」と言ったままためらい、動かない。

安心感・満足感

D児は椅子の片づけを頼まれて教師と一緒にきびきびと張り切って動き、全部片付ける。二人でにこにこしてハイタッチする。



考察 (考察の観点: 幼児の気持ちの調整の仕方・もやもやを解消させるために必要な教師の援助 たくましさやしなやかさにつながる経験)

- ・ 4歳児では、先行経験を思い出して動いたり、不安定な状況を自分で解決したりすることが難しく、そのため一度教師と共に解消したはずでも同じ場面に出会うともやもやした不安な気持ちが繰り返されることがある。幼児のその時のもやもやした気持ちの内容をつかみ、しっかり寄り添いながら自分で思い出したり動いたりするきっかけを作る援助をする。
- ・ 繰り返し何度でも援助しながら信頼関係を深め、「分かった」という嬉しさや「自分でできた」という満足感を味わわせていく。
- ・ 幼児が次には「きっと大丈夫」と自分で気持ちを調整したり、解消できなくても自分から動いてみようとしたりする気持ちが生まれてくればそれを教師が認め自信へとつなげていくことが大切である。

事例3 4歳児 11月

「教師が他の幼児にもかかわっていたため、もやもやした気持ちをもち続ける」

E児は、口調の強い友達に対しては、黙り込み自分の気持ちを十分に表現せず、その場を立ち去ることが多かったが、最近では、おとなしい友達に自分からかかわり、自分の気持ちを表出して遊ぶようになった。教師に対しては進んでかかわり、遊びをやめて話し続ける姿が見られた。

この日は、友達に鉄棒で自分のできることを見せ、認めてもらいたい気持ちを表していた。しかし、相手の幼児は、E児の技に興味を示さなかったため、近くにいた他の幼児に働きかける。しかし、その幼児も自分のできることを主張してきたため、不満な気持ちのまま、あいまいな返事をして鉄棒をやり続けていた。

E児を中心とした幼児の言動

E児の気持ち・感情

自分たちの近くに来た教師にE児が「先生、見てて！こうやって座るでしょ・・・」と言い、鉄棒の上に座り後ろに回る。

E児は教師が同じようにやろうとする姿を正面に立ち笑顔で見ている。

E児たちが鉄棒をするそばを、5歳児が一本下駄で通過しようとする。

E児「先生、こうやって・・・」とやり方を見せる。

教師が再度挑戦する姿を笑いながら見る。

他の幼児が花を持ってきて教師に話しかける。

E児「すごく早く回れる。先生、すごく早く回れる？」と言って前回りをする。しかし、教師に持ち手を注意され「こう？」と直す、さえない表情で高い鉄棒に移る。

E児「前のとき、腿までついたよ」と繰り返し言い、高い鉄棒で逆上がりをする。教師に補助してもらおうが、できない。

教師が行ってしまうのを見ながら、鉄棒から体を離し歩き始める。

先生が来てくれた。自分のできる技を見てほしい。自分のすごいところを認めてほしい

先生も鉄棒をしてくれて嬉しい

先生が他に気をとられて残念な気持ち

先生にもう一度見せてあげよう

やっぱり先生はできないんだ。嬉しい。楽しい

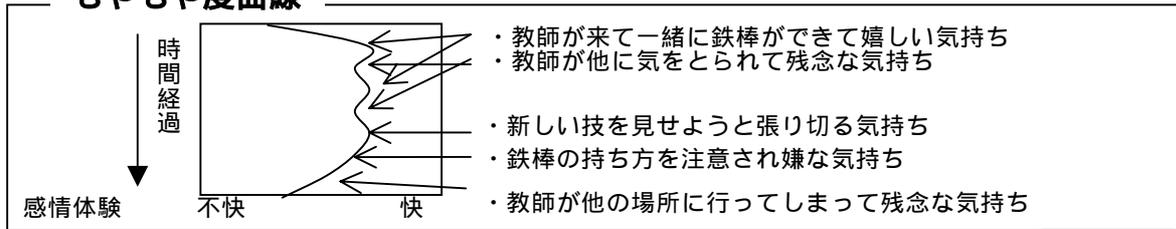
先生が他に気をとられて残念な気持ち

また私を見てほしい
認めてほしかったのに、持ち方の注意を受けてしまって嫌な気持ち
言われたとおりに直したから褒めてほしい
同じ注意ばかりされて嫌な気持ち

いろいろ技を見せて、先生に認めてほしい
先生が補助してくれて嬉しい

もっと見ていてほしかったのに先生が行ってしまった残念な気持ち

もやもや度曲線

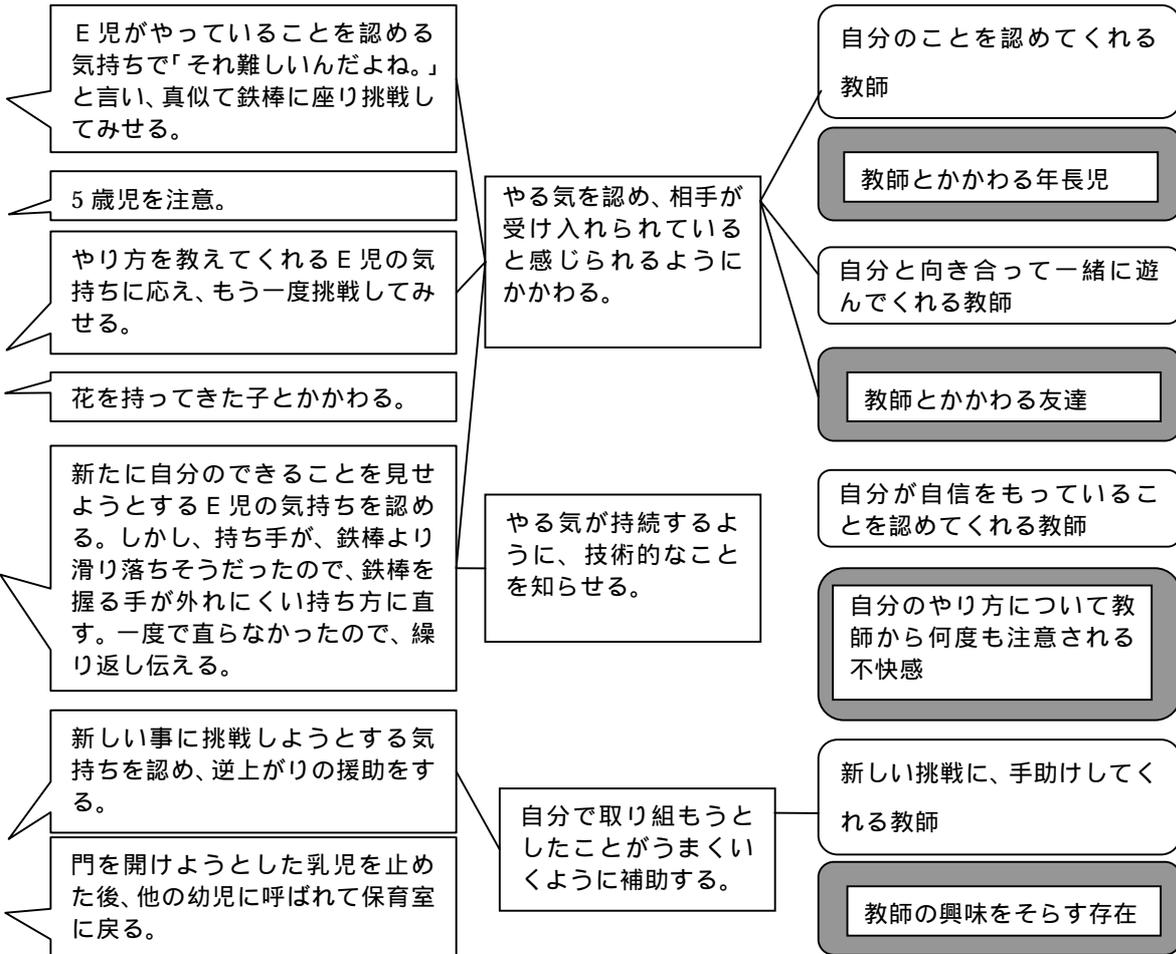


もやもやの要因...

教師の言動と意図

教師の援助

解消していく要因...



考察 (考察の観点: 幼児の気持ちの調整の仕方・もやもやを解消させるために必要な教師の援助

たくましさやしなやかさにつながる経験)

- ・「自分を誰かに認めてもらいたい」という気持ちを抱えているため、自分が思うように認めてもらえないと、もやもやした気持ちが続いてしまう。また、もやもやした状態にあることが多いため、友達の姿を素直に認めることが難しいと考えられる。
 - ・教師のかかわりがあったときには、自分の気持ちを素直に表現したり、教師の言葉に対して一生懸命に答えようとしたりすることから、教師に自分だけを見てほしいという要求が非常に高く、教師の存在が大きく影響していると考えられる。
 - ・教師に認められたいという気持ちが強いため、教師のかかわりが、自分の求めているものとは違うときに、受け入れることができなくなると思われる。
- 以上のことから、「常に自分を見てほしい」という気持ちが強いため、教師の視線が自分から他にそれ、もやもやした気持ちが続いてしまう。本児の働きかけに継続して応えたり、場を離れるときは、教師がいなくても気持ちのつながりをもてるような言葉がけをしたりするなど、もやもやした気持ちから抜け出す経験を多く積み、気持ちが安定するようにかかわっていくことで、他の友達とも素直な気持ちでかかわれるようになることを考える。

事例4 5歳児 7月「自分の力で解決の方法を見付けられるように支えることで納得する」

グループで弁当を食べている時に、F児はG児に「Fちゃんが好き」と言われる。しかし、「私のことを好きだなんて嘘だもん！」と言って、泣いて怒り出す。G児は、自分の思いを聞き入れようとしないF児に困り果て、教師に自分の不満な気持ちを訴えに来る。

F児を中心とした幼児の言動

G児は、弁当を食べながらにこにこした表情で「私、Fちゃんが好き」とF児に言う。

F児は、「違う」と怒って言い、沈んだ表情で弁当を食べる。

F児は、G児を睨み付けながら教師に「Gちゃんが嘘をつくから嫌なんだもん」と言う。

G児は、怒った表情でF児を見つめながら、「嘘なんか言ってないよ。『Fちゃんが好き』って言っただけなのに『違う』って言うんじゃない」と言う。

F児は、「GちゃんはHちゃんが好きなんじゃない！Fは毎日幼稚園に休まないで来ているから分かっているもん！」と泣きじゃくりながらG児を見つめて怒って言う。

G児は、「Hちゃんは好きだけど、Fちゃんだって好きだよ」と小さな声で伏し目がちに言う。

F児は、G児に向かって「違うもん！だっていつも（Gちゃんは）Hちゃんの方ばかり見ているじゃない」と声を荒げて言う。

F児は、「絶対に違うもん！GちゃんはFの方は見ないじゃない。お弁当だっていつもHちゃんの隣で食べているじゃない」と泣きじゃくりながら、G児とH児の方を向いて言う。

G児とH児は、F児の様子を見て困った表情をした後、「（隣になったのは）たまたまだよねえ」と顔を見合わせて言う。

F児は、「いつもそうじゃない。GちゃんはHちゃんだけ好きなんだもん！」と感情の高ぶった様子で泣く。

F児の気持ち・感情

G児の発言を素直に受け入れられない気持ち

不快な感情の原因はG児であるという責める気持ち

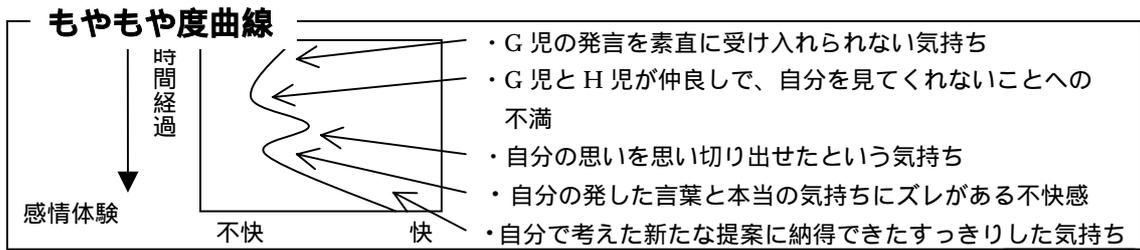
自分の言い分にはそれなりの根拠があることをわかってもらいたい気持ち

自分のことを好きだと言ってくれても納得のいかない気持ち・苛立ち

G児が自分には関心が薄く、H児に好意をもっていると感じ、面白くない気持ち

G児とH児が仲よしで、自分を見てくれないことへの不満

自分の思いを思い切り出せたという気持ち



教師の援助

もやもやの要因...

教師の言動と意図

(太枠はもやもやを解消する援助)

解消していく要因...

「おいしそうなお弁当ね」と声をかけ、F 児の様子を見る。

沈んだ表情でいる時には、幼児が応じやすい簡単な話題を出して接し、自分の思いを出しやすい状況を作る。

G 児と H 児の仲のよい関係への嫉妬

G 児からの話だけで先入観をもって接することなく、自分の話を聞いて（気持ちを受け止めて）くれる教師

感情を十分に表出し、自分の気持ちに向き合えるよう、「どうして『違う』と思うの？」と尋ね、F 児の話を聞く。

自分の思いを表出し始めた時には、自分の思いと向き合い、十分に思いを出していけるよう、話に耳を傾けたり、自分の気持ちに気付いていくような発問をしたりする。

自分の思いとは違う G 児の言葉

それまでの G 児が H 児に対してとった行動の記憶

F 児と H 児の言っていることの違いについて考えられるように「G ちゃんは『H ちゃんも好きだけど F ちゃんも好き』って言っているのだけどな」と言う。

互いの幼児の言い分がくい違っている時には、両方の思いを十分に受け止めながら、状況を整理して分かり易い言葉を加えて話し、幼児が、互いに自分や相手の思いについて考えていけるようにする。

気持ちを受け止めながら、自分や友達の言っていることの違いを整理して伝える教師

不快な気持ちを安心して出せる教師や周りの友達

思い通りにならないもやもやした気持ちを外に表出し、発散できる時間・学級の雰囲気





F 児を中心とした幼児の言動

H 児が「でも F ちゃんだって私と（反対側の）隣だったよ」とつぶやくように言うと、G 児は黙ったままうなずく。

F 児は G 児や H 児と視線を合わさずに黙っている。

F 児は、「G ちゃんばかり H ちゃんとお弁当食べているけど、F だって H ちゃんの隣でお弁当食べたいよ」と口を尖らせ、下を向いて言う。

H 児は、F 児の方を向いて「明日、隣で食べようよ」とやさしい口調で言う。

F 児は、食べる動きを止めて「うん」と応じた後、「でも忘れちゃったらどうしよう」と沈んだ声で言う。

G 児と H 児は、「紙に書いておけば?」「貼っておけば?」と F 児の顔を覗き込んで言う。

F 児は、宙を見つめたまま「なくなっちゃうかも」「飛んでいっちゃうかも」と言う。

F 児は、急に大きな声で「そうだ、お当番の人が好きな人の隣で食べることにしない? そうしたらいろんな人と隣になれるよ」と言う。

G 児と H 児は、「いいよ。そうしよう!」「私、I ちゃんに聞いてくる」と笑顔で言う。

F 児は、走っていく H 児に大きな明るい声で「J ちゃんにも聞いてきて! おねがい!」と言う。

F 児の気持ち・感情

自分の言っていることが覆されたきまりの悪さ

G 児が自分よりも H 児に目を向けていると感じることに対する腹立たしさ

G 児に対する対抗意識

自分の発した言葉と本当の気持ちにズレがあり、すっきりしない気持ち

納得できたすっきりした気持ち

自分が考えたことを友達が受け入れ、一緒に喜んでくれる嬉しさ



教師の言動と意図

教師の援助

(太枠はもやもやを
解消する援助)

もやもやの要因...

解消していく要因...

不満な気持ちにはばかり注目せず、『どうしたいのか』という方向で考えてほしいと思い、「Fちゃんは、Gちゃんの好きなのはHちゃんだけだと思うのよね。でも、どうしてそんなに涙が出ちゃうの? どうしたいのかな?」と声をかける。

納得できる考えを自分で見つけてほしいと考え、「そんな大事なことを忘れちゃうんじゃない? みんなだって困るわよねえ。だったら忘れられないようにいい事を考えるしかないんじゃない?」と提案する。

笑顔で見守る。

相手への不満な気持ちに執着している時には、その思いを十分に受け止めつつも、その奥にある自分の本当の気持ちに目を向けて考えていくことができるような言葉をかける。

解決策に納得しきれずにいる時には、自分が納得できることを自分自身で考えていくことができるような働きかけをする。

納得できる考えを見つけたり、友達との気まづさを解消したりして問題を解決した時には、嬉しさを受け止める。

『どうしたいのか』ということを考えていけるような言葉をかける教師

自分の言ったことと感じたことのズレへの気づき

『いいことを考えられる』と思う自分への自己肯定感

『友達との対立した気まづい関係を修復したい』という思い

『自分もG・H児のように友達ともっと仲良くなりたい』という思い

自分が考えたことを受け入れてくれる友達

嬉しさを受け止めてくれる教師

考察 (考察の観点: 幼児の気持ちの調整の仕方・もやもやを解消させるために必要な教師の援助
たくましさやしなやかさにつながる経験)

- ・ G児の「Fちゃんが好き」という言葉には反して、F児は初めの頃、G児が自分には関心が薄く、H児に好意をもっていると感じて、面白くない気持ちでいた。自分がG児とH児の関係の深さに嫉妬していることには気付いていないため、初めの提案では自分の発した言葉と気持ちにズレが生じ、もやもやした気持ちを解消することができずにいた。しかし、嫉妬の気持ちの裏には、『友達との対立した気まづい関係を修復したい』『G・H児のように友達ともっと仲良くなりたい』という思いがあり、このことが、自分の納得できることを自分自身で考えて解決していこうとするF児の意欲を大きく支えたと考えられる。
- ・ 幼児が、自分自身で解決の方法を見つけ、納得することでもやもやした気持ちを解消していくことができるようにするためには、教師は、幼児の心の揺れをとらえながら状況を整理して伝えたりどのようにしたいのかを問いかけたりし、幼児の心に寄り添った援助をしていくことが大切である。
- ・ 5歳児は、友達の言動によって心が揺れることが多い。幼児が、相手への否定的な感情や他の不快な感情と向き合い葛藤しながらも、それを乗り越えていこうとする気持ちもてるよう、日常生活の中で、友達と受け入れ合う心地よい体験を積み重ねておくことが大切である。

事例5 5歳児 7月「自分の力で考えられるように支えることで葛藤を乗り越える」

K児とL児は、4歳時から一緒に遊ぶことが多かった。イメージ豊かなL児が遊びをリードしていくことが多い。しかし、最近は2人の関係に変化が見られるようになり、他の幼児も一緒に遊んでいる時に、K児がL児を避けるような姿もでてきている。

K児を中心とした幼児の言動

K児はL児、M児と一緒にうさぎの学校ごっこをしている。

L児が膝をかかえ、顔を手で覆って、座り込む。

K児とM児は困った顔をして顔を見合わせる。

K児「私たち、何も言ってないのにLちゃん、怒るんだよ」と怒ったように言う。

L児「何にも言ってなくないよ。私の髪、変だって言ったじゃない」と泣き始める。M児はL児から顔をそらし、困ったように「髪のことと言ったけど、変だと思ったんじゃないよ。髪の毛いっぱい切ったんだなあと思ったんだもん」

K児、地面を見たまま、「いつも、そう。Lちゃんすぐ怒るんだもん」と小さい声で言う。

L児、K児に向かい、「髪切ったら変になって言った」と少し大きな声で言う。

K児、大きな声で「そんな風に言ってない」

L児は、大きな声で泣き始める。

K児「ごめんね」顔はこわばり、L児の方を向いていない。

L児は、K児の「ごめんね」に反応せず、教師と一緒に保育室に入る。

K児は怒ったような顔で、M児と一緒にそのまま立ち尽くしている。時々、顔を見合わせて2人で話をする。

K児の気持ち・感情

L児のせいで嫌な気持ちになっていることを教師に分かってもらいたいという気持ち

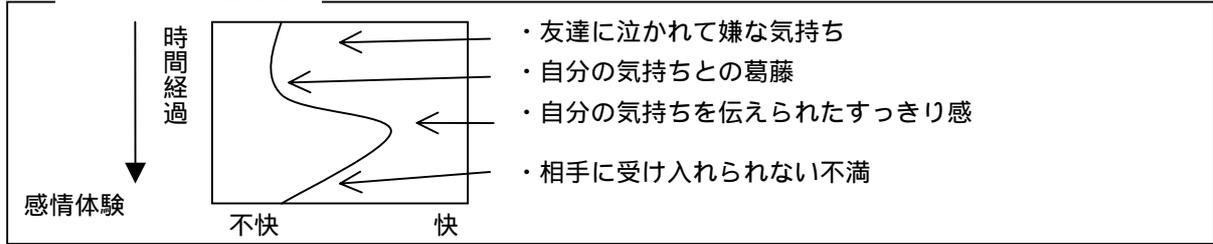
以前より感じていたL児が怒ることに対する不満

相手を責め、自分を正当化する気持ち

友達を泣かせるのは悪いという気持ち
自分の強すぎた行動を認め、謝ろうとする気持ち

心がすっきりしない気持ち
L児に対して嫌なことをしてしまったのかもしれないという後悔

もやもや度曲線



教師の言動と意図

3人の幼児の表情を見て、自分たちで解決できないことが起きていると考え、そばに近づく。

教師は、3人のそばに座り、それぞれの表情を見ながら、互いの言い分を聞く。

それぞれの幼児の気持ちを聞き、相手が理解できるような言葉に置き換える。

実際に何を言ったかどうかではなく、悲しくなったL児の気持ちに気付くことができるように「Lちゃんは、髪のことを言われなくなかったんだよね」と言う。

二人とも大声になり、感情的になっているので、離れることで、少し冷静になるのではないかと考え、L児と一緒に保育室に入る。

遊びに気持ちが向かわないのは、K児自身が何かを感じているのではないかととらえ、K児と遠くから、時々視線を合わせるが、見守るだけで声はかけない。

教師の援助

(太枠はもやもやを解消する援助)

トラブルを解決する時の援助は、一人一人の幼児が自分の気持ちを十分に話せるようにする。

それぞれの幼児が自分の本当の気持ちに気付き、相手の気持ちを分かろうとするきっかけを作る。それぞれの幼児が納得し、相手の気持ちを理解できる言葉に教師が言い換えていく。

自分の気持ちや行動について考えるための時間と場所を保障する。

K児は、友達と話し、葛藤しながら、解決に向けての方法を自分なりに見つけていこうとする姿を見守る。

教師が常に見守っていることを視線で伝える。

もやもやの要因...

解消していく要因...

幼児だけでは解決できないトラブルがあることを察知し、援助する教師

自分の気持ちを相手に伝えられる技術

自分に対して怒ることの多い友達の態度

自分の気持ちを言える相手との対等な関係

大きな声で泣いている友達

他の友達から離れていられる、ひとりで安定できる空間

ゆっくりと考えられる時間

一緒にいてくれる友達

L児を好きだという気持ち

自分が一生懸命考えているのを見守り、支える教師

K児を中心とした幼児の言動

しばらく、L児は一人で絵本を見ている。表情は暗く、落ち込んだ様子のみである。

K児がM児と保育室に真剣な顔で、戻ってくる。
K児は、L児の真正面に立ち、しっかり目を見て、優しい声で「Lちゃん本当にごめんね」と言う。

L児は「別にいいもん」と言い、K児の顔を見ず、怒った口調で言う。

K児は「本当にごめんね。ちょっと意地悪だった」とL児の顔を見ながら何度も言う。

L児は下を向き、硬い表情のみである。

M児が「お絵かきしよう」と誘い、K児とM児は、L児の隣に椅子を持ってきて、絵を描き始める。3人で、ぼつりぼつりと話を始める。突然、K児が涙を流し「Lちゃんは、私の気持ちを分かってくれない。ずっと泣いていて、許してくれなくて、いっぱい謝っているのに・・・」と言う。

K児の気持ち・感情

自分で次の行動を考える

L児の気持ちをL児の立場に立って考えようとする気持ち

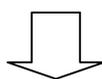
L児と仲直りをしようとする気持ち

自分の思いを伝えられ、すっきりとした気持ち

自分の気持ちを受け入れてもらえない戸惑い

自分の気持ちが伝わらない悲しさ、悔しさ

どうすればよいか分からず悩む気持ち



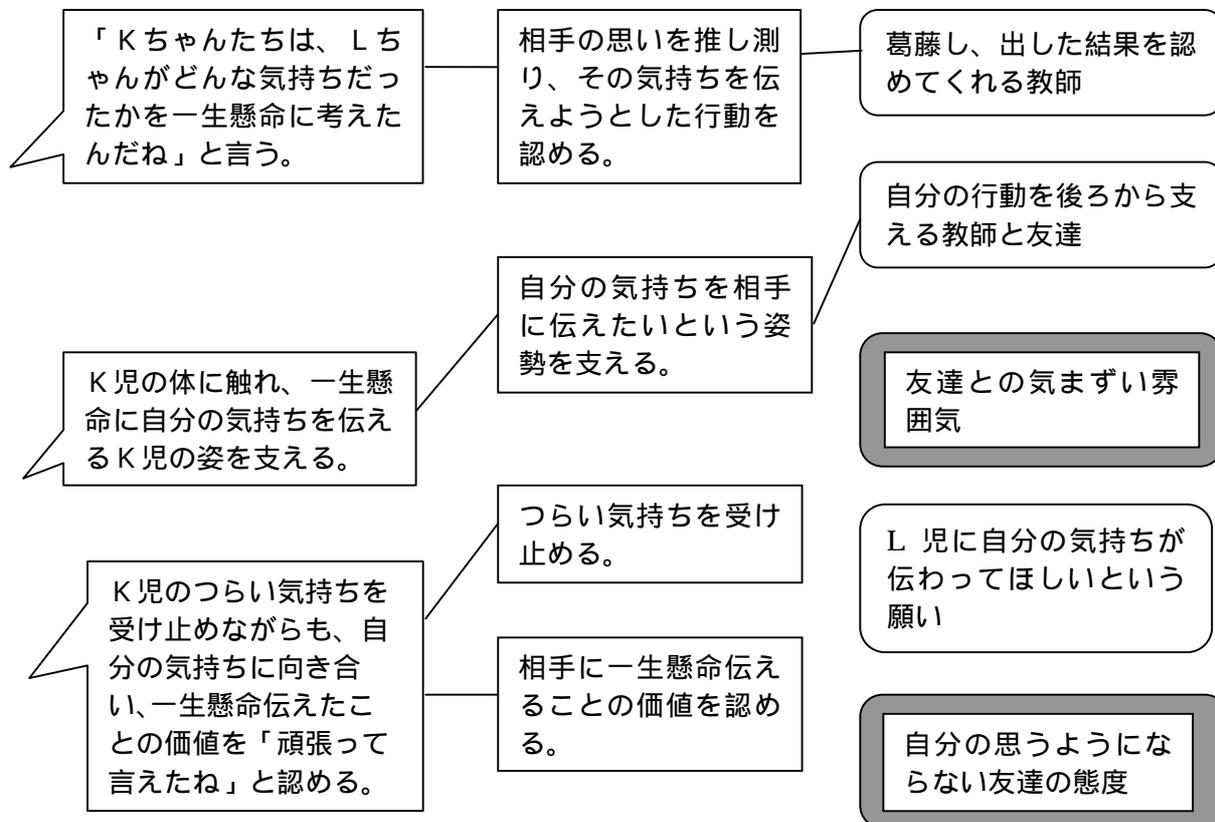
教師の言動と意図

教師の援助

(太枠はもやもやを
解消する援助)

もやもやの要因...

解消していく要因...



考察 (考察の観点: 幼児の気持ちの調整の仕方・もやもやを解消させるために必要な教師の援助
たくましさやしなやかさにつながる経験)

- ・ K児は初めの頃、自分に対して怒ることの多い友達の態度を思い出し、そのことに対する不満から「L児が悪い」「自分は悪くない」という気持ちでいた。しかし、大きな声で泣いているL児の姿に接し、その後にL児から離れた場所で考えたことで、自分は本当に悪くないのか、L児だけが悪いのかと心が揺れながら、もやもやした気持ちを深めていったと考えられる。これは、怒りの理由を自分で深く考えようとする、自分の本当の気持ちに向き合おうとする心の動きである。
- ・ 「L児が悪い」「自分も悪い」という2つの相反する気持ちに心が揺れる葛藤を乗り越え、L児に謝ろうという気持ちになっていったのには、一人で考える時間と場所があったこと、そばにいてくれる友達の存在があったこと、これを見守る教師の存在があったことが大きい。教師は、一人一人の幼児の心の揺れをとらえ、前向きに行動できるよう支えるが、その際に「待つ」ことも重要である。このことは、教師が幼児を信頼するということでもある。
- ・ K児は、自分の力で気持ちを調整することで、葛藤を乗り越え、もやもやトンネルを一度抜けることができた。しかし、友達にその気持ちが受け入れられず、再びもやもやした気持ちを抱えることになった。繰り返し、もやもやトンネルを通ることで、幼児は自分の思い通りにならない状態を自分の力で考え、乗り越え解決していこうとする力を身につけていく。このことで、たくましくしなやかな幼児が育っていくと考える。

まとめと今後の課題

事例を分析・考察した結果、明らかになったことをまとめた。

1 事例から見たもやもやの要因とその対応

(1) 4歳児の事例から

もやもやの要因		調整の仕方	解消していく要因	教師の援助
味わっている感情	不快の場面			
戸惑い	家庭と幼稚園とのルールの違い	生活の仕方を知らず、やり方が分からない	教師との間で ・一緒にわかってくれる教師 ・わからないこと、してはいけないことを教えてくれる教師 ・遊びのおもしろさや友達とのかわり方を教えてくれる教師 ・気持ちを受け止めてくれる教師	・思い通りにならないことに対して、自分の感情を言葉や動きで出せるようにし、その思いを受け止めるようにする。 ・教師と一緒に行動したり、傍で見えてくれたりすることで安心して自分を出せるように、一人一人に丁寧にかかわることを大切にす。
不安 不満	遊びがない(居場所がない) 動き方が分からない	教師と一緒に遊びながら安心感をもつ 繰り返し行うことで分かるようになる	自分の中で ・生活の仕方が分かるようになる 安心感 ・自分でできたという喜びや実感 ・遊ぶ楽しさ、満足感 ・繰り返し取り組むことの喜び ・友達とかわりたいたい気持ち	・幼児がやっていることを認め、励まし、自分なりに満足感もてるよう援助し、自分にもできたという喜びや自信をもてるようにしていく。 ・幼児の思いや言葉を受け止めた り、イメージをもって楽しんで いる姿を認めたりする。また、 教師が仲間になって同じ行動 をするなど、遊びへの意欲をも たせていく。
不愉快	間違いを指摘された	気持ちを受け止めてもらうこと でうれしさを感じる	友達との間で ・楽しそうに遊ぶ友達 ・同じ興味をもつ友達と一緒に遊ぶ ももしろさを共感してくれる友 達	・興味のあることにじっくりと取 り組ませ、楽しさを十分に味わ い、自己を発揮できるようにす る。
苛立ち	自分の思い通りにならない	自分のことをわかってくれる相 手を実感する	環境 ・じっくりとかわられる場・空 間・時間	
思い込み	自分ではできない	遊び慣れたことをする楽しさを 感じたり、満足感を味わったりす る		
拒否(抵抗)	不安な気持ちを受け止めてもらえない	気持ちを受け止めてもらうこと で落ち着く		
こだわり	納得がいかない	友達の様子を見たり、相手の思い を知ること で落ち着く		
残念 悲しい	もっと認めてほしい 見ていてほしい	思いを受け止められ、安心感をも つ		

(2) 5歳児の事例から

もやもやの要因		調整の仕方	解消していく要因	教師の援助
味わっている感情	不快の場面			
納得できない	友達の発言を素直に受け入れられない 自分の思いにそぐわない友達の言動 自分の言葉と気持ちにズレがある	自分の納得のいく表現を見つけて 手立てを見つけれられるようになる 相手の思いにも気付き、仲直りしようとする	自分の中で ・自分の存在が認められ必要とされる実感・安心感 ・自分と相手の思いの違いに気がつく力 ・自分の言い分を伝えられる表現力 ・規範意識の育ち ・違う考えに触れることで身に付けていく多様な解決方法 <u>友達との間で</u> ・自分の気持ちを素直に表現しても認めてくれる友達 ・心が通じ合う友達 <u>教師との間で</u> ・幼児だけでは解決できないことを援助してくれる教師 ・自分の行動を見守ったり認め励ましたりして、行動を支えてくれる教師 <u>環境</u> ・自分の思いを素直に表現し、どんなことでも伝え合える学級の雰囲気 ・自分や相手の思いに気付いたり不快な気持ちを解消したりできる時間や場	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いに向き合えるように問いかけたり話を聞いたりする。また、友達との言い分の違い、相手の気持ち、状況などを整理して伝えたり気付かせたりし、違った視点をもてるようにする。 トラブルになった時は、それぞれの思いを公平な態度で受け止め、理解に努める。 自分の言葉で表現できる機会を作る。 幼児が自分の気持ちを伝えようとす姿、友達との気まづさが解消できたうれしさなどを支え、自分の力で乗り越えたことを認める。 自分の気持ちについて考えられるような時間と場所を確保し、その子なりの解決の仕方を見守る。 快・不快を出し合える学級の雰囲気作りをする。
戸惑い 悩む	自分の気持ちを受け入れてもらえない どうすればよいか 手立てが分からぬ	場を離れて自分なりに考える 気持ちを落ち着かせる 同じことを繰り返さないようにする		
罪悪感	相手を泣かせてしまった	素直な気持ちになる 自分のよさを実感していく		
不満 腹立たしさ	仲のよい友達が自分を見てくれない 自分の気持ちを分かってくれない	自分と相手の思いを合わせて折り合いをつける 思うようにならない友達の存在に気付く		
悲しさ 悔しさ	自分の気持ちが伝わらない	あきらめずに伝えようとする		

2 たくましくしなやかな幼児を育てるための、一人一人に寄り添った援助について

私たちは、幼児が園生活の中で感じる様々な感情に目をむけ、このもやもやした『不快な感情』を幼児自身が切り替え調整し、困難な状況乗り越えていけるよう、個々の幼児の心に寄り添った教師の援助の在り方を探ってきた。幼児の内面に焦点を当て、『葛藤しているときのもやもやした気持ちを調整し解消していく過程』を探り出すとともに、幼児を取り巻く周囲の環境や状況・教師の援助から、『もやもや（不快な感情）の要因』やそれを『解消していく要因』は何かを明らかにした。また、もやもやを解消するための調整の仕方が身に付いていくことによって、たくましくしなやかな幼児に育っていくということがわかった。そして、これらを考察してみると、4歳児・5歳児それぞれにおける特徴的なもやもやの要因、もやもやの調整の仕方、解消していく要因、発達の特徴を考慮した教師の援助の在り方が明らかになった。

< 4歳児 >

- | | |
|-----------|---|
| もやもやの要因 | ・自分の言動に対する不安や戸惑いが主な要因としてあげられている。
・自己中心的な思いが強く、その思いと、相手の気持ちに接点が見いだせないときにもやもやした気持ちをもつ。 |
| 気持ちの調整の仕方 | ・教師に自分の思いや気持ちを受け止められ、状況や行動の仕方が分かったりすることで安心感を持ち、気持ちが落ち着き、もやもやが解消される。 |
| 解消していく要因 | ・ありのままの気持ちや思いを受け止めてくれる教師や友達の存在 |
| 教師の援助 | ・幼児の気持ちに寄り添い、受け止めたり、幼児のしていることを認めたりし、安心して自分を出していけるようにする。
・幼児とともに動く中で遊びや生活に必要なことを具体的な言葉や行動で伝えたりしていく。 |

< 5歳児 >

- | | |
|-----------|---|
| もやもやの要因 | ・友達との間で起こる思いや気持ちのすれ違いが主な要因としてあげられる。 |
| 気持ちの調整の仕方 | ・自分の気持ちを整理し、相手の思いに気付いたり、どのようにしたらよいか悩みながらも解決に向けて手立てを見つけ、もやもやを解消しようとする。
・教師や友達に支えられながら、自分の内面に向き合い、状況を整理し、相手の思いと合わせて調整しようとする。 |
| 解消していく要因 | ・自分なりに自分の内面と向き合い、解決方法を見いだそうとする気持ち
・自分だけでは解決できないところを支えてくれる教師や、自分の思いを素直に表現しても、認めてくれる友達や学級とのつながり |
| 教師の援助 | ・幼児の行動を見守ったり励ましたり気付かせたりし、自ら解決の方法を見つけて納得できるよう、幼児だけでは解決できないことを支える。
・幼児が自分の気持ちに気付いたり、不快な気持ちを解消したりできるよう時間や場を確保する。 |

3 今後の課題

今後も継続的に3歳児から3年間の発達の特徴をふまえ、『もやもやの要因』『解消していく要因』『不快な感情を解消していく過程』を探り出し、幼児一人一人に寄り添った教師の援助について探っていきたい。

平成 1 6 年度

教 育 研 究 員 名 簿

地区名	幼稚園名	氏 名
新宿	落合第六	三枝 彰子
新宿	西戸山	児玉 勝枝
文京	千駄木	吉羽 優子
台東	大正	平岩 由美子
墨田	菊川	金澤 里美
大田	萩中	中村 千絵
渋谷	臨川	森山 未来
練馬	光が丘さくら	小野 暁子
葛飾	飯塚	三上 裕子
日野	第三	江藤 愛

世話人

担当 東京都教職員研修センター

指導主事 鈴木 奈緒美

平成 1 6 年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録
平成 1 6 年度 第 2 1 号
(東京都教育委員会主要刊行物)

平成 1 7 年 1 月 2 4 日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒 1 - 1 - 1 4
電話番号 0 3 - 5 4 3 4 - 1 9 7 4

印刷会社名 鮮明堂印刷株式会社